

# 島東京矢高会 ニュース

## ご挨拶

支部長 中山正雄 (21期)

関東地区にお住いの皆様、  
こんにちは。

この度、矢上高校卒業生会  
東京支部の支部長の大役をお  
引き受けることとなりまし  
た。中山正雄と申します。

どうぞ、よろしくお願い申  
し上げます。

僭越ながら少し、私の紹  
介をさせていただきます。

昭和26年一月に旧石見町  
(邑南町)中野に生まれ育ちま  
した。矢上高校では陸上部で  
中・長距離で頑張りました。  
また、同級生の人たちに支え  
られて生徒会長を務めさせて  
いただきました。

2年・3年の担任は福島先  
生でした。卒業後は東京の日  
本社会事業大学に進学し、新  
聞奨学生として一年、その後  
は夜警やビル掃除などのアル  
バイトをしながらでしたが卒

業して、児童養護施設の児  
童指導員として 25年間働き、

その福祉の働きに評価をいた  
だいて白梅学園短期大学で保  
育士や社会福祉士を養成す  
る教員として、この3月 まで

23年間働き定年退職をし  
ました。また、東京府中市を本  
拠地とする社会福祉法人の

代表を務めており保育所、障  
害児の施設等の運営にも携わ  
っています。

さて、卒業生会についてです。  
東京支部には、以前2回くら  
い総会に出席したことがあり  
ますがずっと失礼しておりま  
した。退職したのを契機に何  
かお役に立てればと連絡しま  
したら、いきなり支部長をと  
のお話で、正直「しまった」と  
思いました。しかし、大羽支  
部長代行及び三宅事務局長

等現役員の方のお話をお聞き  
し引き受けることにしました。  
今年の夏の全国高校野球大会  
前の朝日新聞の島根県予選評

注目の高校として母校の名  
がありました。

結果は今一歩でしたが頑張  
っているのが伝わりました。こ  
の2年間、コロナ禍の下で帰  
省もかなわず、昨年4月の母  
の死にもリモートで葬儀に参  
加となりました。故郷が遠い  
のか近いのか複雑  
な気持ちになりました。

昨日(九月  
十日)兄から新米  
が届きました。荷  
を開くと島根の中  
野の田んぼの風景  
が頭の中に浮かび  
ました。貧しいなが  
らも家族で田植え  
や稲刈りの光景、  
亡くなった父母の姿  
もありました。しば  
らくして我に返り、  
小さく飾ってある父  
母の写真を見て「そ  
ういう年になったな」  
とも・苦笑いです  
かね。



発行日 令和3年10月5日  
号数 第19号  
発行 矢上高校卒業生会東京支部  
発行人 中山正雄 編集人 三宅良二  
事務局 千葉市緑区高津戸町 309・44

人と人とのかわりが希薄  
になつていくということが生き  
づらさを作っていると思いま  
す。これまで卒業生会へのか  
わりが積極的でなかったのに、  
「支部長になったとたんに関  
なことを」と思われると承知  
のうえで、支部長として

の意思表示として「楽しいかかわり」「ほっとするかかわり」を共有でき、それぞれが可能な範囲でつながれる会としてつないでいきたいと思えます。つながる方法を若い方々の力を上手に借りて進められれば良いかなと思っています。そして、母校の後輩たちに応援のエールを届けていければと思います。

皆様とお会いできる日を楽しみにしています。できるだけ頑張つて役割を果たしていきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

中山正雄新支部長へ

大羽登(6期)

この春、ワンポイントリリーフとして東京矢高会支部長代行を引き受け、どうなるかと心配しておりましたが、この度、中山正雄さんに、新支部長に快く引き受けて頂き、一同安堵しております。かねてより事務局長から、貴君の人となりを見ておりました。この春、貴君との出会いを得ました。

貴君は理論と実践を地で行われた「知行合一」を見事に成し、今日を迎えられてい

ます。老生にとつて正に「意中の人有り」でした。

昨今、東京支部は会員の高齢化もあつてじり貧過程に居ります。どうか貴君のインテリジェンスとコモン・センスで新しい東京支部を創造して頂けるものと思います。微力ながら、私も老骨に鞭打ってサポートさせて頂きます。どうぞ皆様、新支部長の心意気を感じて頂き、盛り立てて下さいますよう、宜しくお願い致します。

長く続いた巣ごもりの日々も、ワクチン接種が進み、明るい兆しも見えてきました。各位「まめな顔を、東京矢高会で見せちゃんさい」。

### 確かな日々を

島根県立矢上高等学校  
教頭 奈良井 瑞恵

矢上高校卒業生の皆様方には、日ごろから矢上高校へのご支援を賜り、まことにありがとうございます。この場を借りまして改めて感謝申し上げます。

さて、口を開けば「新型コロナ」の言葉が出るこの頃ですが、矢上高校ももちろん例外ではなく、「魅力化」を推し進

め、寄宿生を多く抱えるがゆえに悩みの多い日々を生徒も教職員も過ごしてきました。緊急事態宣言の出ている地域への帰省の可否に始まり、帰省した生徒が寄宿舎に戻った

ときの対応や、生徒の学びや生活を保障したうえで、密になりがちな寄宿舎でクラスターを出さないようにするにはどうすればいいのかなど今更で考えもしなかつた問題が次から次へと噴出し、そのたびに頭を突き合わせ解決を探る日々でした。もちろん学校生活でも行事や大会は軒並み中止になり、リモート授業を行つたり、常にマスクをはずさず、昼食時も黙って前を向いて食べる毎日。生徒にも教職員にもストレスの多い毎日でしたし、それは残念ながらも今も続いています。

それでも秋の始まり、放課後のグラウンドから生徒達の拍手や声が聞こえます。矢高祭準備です。昨年度大幅に縮小した文化祭、体育祭ですが、今年とは通常通り3日の開催にしました。声は極力出さないうえ、制限は多い中ですが、だからこそ、その中で工夫し(拍手に変え)いつもとは違

応援の形にしたり、生徒会が何やら運営に対策に動き回っていたりするのが見るのはなんともうれしいものです。新しく目指す学力観として「答のない問題に取り組み、解決しようとする力」と言われて久しいですが、こんな中だからこそ、生徒たちはかけがえない時間をこの矢上高校で共有し、真に答のない問題に毎日直面しながら日々成長

しています。雲がたなびく四方の山々に守られて、きつと卒業生の皆様と同じように、確かな日々を過ごしています。本日本文化祭初日、生徒会長の挨拶冒頭は「あたりまえのことが本当はあたりまえでないことに気づかされたこの一年でした。矢高祭ができることは感謝です。」この日々だからこそ「学び」がここにあります。

最後にお知らせを。「今」の矢高の姿は矢上高校ホームページでご覧いただけます。矢高HPの充実ぶりはよく知られていて、HPを見て遠くの高校から学校訪問を申し込まれたりもします。(自慢です。)ほぼ毎日更新され、たとえば「部活動」のところを



いただくといインターハイ出場  
 (陸上競技部)や中国大会出  
 場(剣道、ソフトテニス)農業  
 クラブの農業鑑定競技会の全  
 国大会出場、野球部の石見大  
 会優勝など、時期に合わせて  
 今の母校の活躍をご覧頂けま  
 す。また生徒の生の姿と  
 いうことでは「矢高ニュースレ  
 ター」の欄をぜひ一度ご覧く  
 ださい。「筋金の通った」矢上  
 高校生の輝く「笑顔」と「元  
 気」をお届けしたいと思いま  
 す。

\* \* \* \* \*  
 島根県立矢上高等学校  
 硬式野球部

監督 山本 翔

平成29年より矢上高校野  
 球部の監督に就任しておりま  
 す山本翔と申します。日頃よ  
 り矢上高校野球部の活動にご  
 支援、ご尽力を賜り厚く御礼  
 申し上げます。

この度は矢上高校卒業生会  
 東京支部会報への執筆させて

いただくことに初めは「私の  
 ような若輩者が」というこ  
 とでご遠慮させていただけれ  
 ばと考えておりました。しか  
 し現在のコロナ禍において矢上  
 高校、そして野球部へご支  
 援いただいている皆様へ感謝  
 を伝えることができると思え  
 この度、寄稿させていただきます  
 ました。

寄稿に際し、まずは私の自  
 己紹介をさせていただきます。  
 私は福岡県北九州市に生ま

れ、福岡県立東筑高校を卒  
 業し広島東洋カープ球団へ入  
 団いたしました。9年間プロ野  
 球に身を置いておりましたが、  
 その後は会社員として働き  
 ながら小学生や中学生の野  
 球指導を行っておりました。  
 平成25年からは広島経済大  
 学の監督に就任し、平成26年  
 には全日本大学野球選手権  
 大会へ出場いたしました。

平成28年、邑南町より矢  
 上高校野球部の監督になり、



町の活性化に一役かって欲しいというお話をいただきました。私も自身もいずれは高校野球の監督をやりたいという夢を持っておりましたが、右も左も分らない場所へ現在の職を捨て家族とともに長く住み慣れた広島を離れることは非常に重い決断でした。どうするか迷いましたが、石橋町長や邑南町の地域の方々の熱い思いを感じ、矢上高校野球部の監督を引き受けること

を決心いたしました。

しかし当初は試練の連続でした。就任一年目の平成29年は公式戦勝利無しという結果でした。我武者羅に勝ちたいという気持ちだけでは結果ついてこない、どうすればよいのか頭を悩ませました。選手そして私自身も、改めて地域の皆様のおかげで野球ができていくこと、「地域から応援される選手・チームになる」ことを考え野球に取り組んでまいりました。その結果と

いうわけではありませんが、平成31年春季島根県大会では3位、同年秋季島根県大会では初優勝、令和2年は秋季大会ベスト4、今年は春季大会3位など中国大会へも駒を進め、勝利を掴むことができ、少しずつではありますが結果を出すことができました。この結果は選手の頑張りだけではなく、地域の方々や矢上高校を卒業した方々から

ドリンクやお米など支援や後押しがあったからこそ、よい結果を出すことができています。昨年とは違って昨年は春の選抜高校野球大会の21世紀枠の候補に名前を挙げていただきましたが、残念ながら出場は叶いませんでした。ですが選手、そして私自身も徐々に力をつけ、邑南町の皆様が心待ちにしている結果もついてくるのではないかと考えております。これもひとえに矢上高校卒業生会の皆様の支援あつてのことと存じております。

遠く離れた場所であっても矢上高校そして硬式野球部へのご声援をいただくことが私力の力となります。引き続き厚いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 高校生活の思い出

岡部輝生(21期)

この年になって、高校生活の思い出を語るにはちよつと恥ずかしい気持ちになります。

でも、最初に浮かんだのが、舟木一夫の「高校三年生」という曲です。この曲が流行って

いたときは確か中学二年生頃だったと思います。中学校の部活はプラスチックバンド部だったので、この曲を演奏したような記憶があります。当時の矢上高校にはプラスチックバンド部の活動がなかったのでやむなく柔道部に入りました。

柔道部に在籍していたせいか、夕日に染まった赤い校舎とその片隅に佇んでいる何組かのカッパルを見つめながら良く自転車で帰宅したもので

あまり思い出したくないのが体育祭の応援合戦です。数人の男子生徒が腰ミノを着け、上半身裸でプラを付け、「アロハ・オエ」の曲に合わせて踊ります。さすがこれには恥ずかしくて嫌でたまりませんでした。先輩、後輩も同じような経験をされた方々もいらっしゃると思います。しかし今では良い思い出です。

体育祭終了後、組み立てた応援席を崩し、廃材を校庭の真ん中で燃やす所謂「ファイヤーストーム」を囲んでのフォークダンスは素敵な思い出になりました。

数枚しかない当時の写真を見て懐かしく想っております。

町に数台しかなかった電話も今では個人一人ひとりが持っている時代に変化しましたが、時代が変わっても、人々を思う気持ちは不変ですね。

あと何年生きられるか分りませんが、健康で長生き三原則を守りながら、終活に向け悔いのない人生を送りたいと思っております。

### 年齢を重ねることの

「ふんやん」

日野原信雄(17期)

「帰省」とは、盆や正月などに、父母に会って安否を確かめ、生まれ故郷に一時帰ることである。その他、いまでは農作業の手伝い、空き家となった生家の管理などで帰るのも帰省と考えていいだろう。すでにふるさとを離れて50有余年。今も、空き家となったボロ家の管理と20㍗ばかりの田んぼの草刈りのため、年三、四回の帰省を続けているが、社会の変化、自らの年齢、生活の変化などから、ふるさとへの思いが微妙に変化している。

廃線)の因原駅からバスで断魚のトンネルを抜けて井原の皆井田に入ったとき、なつかしい稲の匂いがした。それもやがて慣れて感じなくなった。社会人になってすぐ九州(福岡市)に転勤し、九州の農村を回った。そこでわがふるさと石見町(旧)の農村と比較してみようになった。まず第1に驚いたのは、冬でも田んぼが青々していること。麦もあつたが、冬で雑草が枯れない。温暖な九州で当然だが、新鮮な発見だった。

よる「地域おこし」のシンポジウムなどで、たびたび邑南町が出てきて驚いた。ちなみに農林水産省の二〇二〇年版「農業白書」にも、Iターン(都会から移入した農業者)の事例として取り上げている。邑南町に移住する女性が増え、「子育て日本一」の町として紹介。ちよつと誇らしく感じたが、時々帰省したときは、実態はどこか違うな、という印象を受けた。



数多くある(小中学校で教えるべきだ)。

また、民俗学の泰斗、宮本常一が訪れ、粕淵の古老(田所信用組合をつくった田中梅治)に会ったことや日貫の青笹の共有の萱(かや)場について書き残している。教育委員会はいたら、さらに10年後、ふるさとをどのように感じ、関わり

せめてふるさとのこととは知っておこうと思いい、帰省のたびに町内を回った。全世帯が離村した井原の八幡集落、農家が10戸以下になった日貫の青笹集落、史跡では中野・井原の多くの城跡や古墳。そして足利尊氏の子どもである足利直冬が戦勝を祈願した井賀茂神社(井原)、多胡家家訓で知られる戦国武将、多胡辰敬の余勢城跡(中野)日本地図をつくった伊能忠敬の測量隊が出羽や日貫に滞在したことなど、日本史にかかわる重要なできごとや場所が

ついでに「邑南町」が全国ブ  
ランドに?  
令和三年度の年会費のお礼  
今年度年会費のお願い

### 今年度年会費のお願い

本支部の経費は、皆様方からの  
会費・寄付金で運営されておりま  
す。令和三年度の会費をお納め  
頂きました皆様、ありがとうございます  
頂きました。大勢の方に協力頂き  
ました。本支部では、支部の周年  
行事や母校の周年行事やイベン  
ト、野球部が甲子園出場等の時の  
ために、積み立てをしております。  
ご協力くださいますようお願いし  
ます。一口千円として何口でもお  
納め頂くことができますようになっ  
ております。同封のゆうちょ銀行  
の払込取扱票にて、お納め頂けれ  
ば幸いです。まだの方は本年度の  
会費をお納め下さいますよう宜  
しくお願いたします。会費一口千円  
何口でも

口座番号〇〇一四〇〇一七二  
一七七  
金融機関からの振込用 口座番  
号

ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチキ  
ュウ)店 当座 〇〇七二二七七  
口座名 矢上高校卒業生会東京  
支部  
令和三元年度年会費納入ご芳名

- 十口一万円三宅弘文(12期)中
- 村輝夫(4期)中山正雄(21期)
- 六口六千円伊崎悦子(14期)五
- 口五千円上田律子(21期)大羽登
- (6期)三宅光寛(21期)下瀬忠枝
- (5期)三口三千円山田勅(18
- 期)古賀真知子(26期) 服部豊
- (15期)三浦政喜(6期)石川義之
- (5期)酒井富雄(22期)花本保博
- (10期)三宅良二(35期)二千元
- 宮田和明(45期)日野山勉(10期)
- 日野原育生(8期)木村信恵(18
- 期)高山恒子(15期)浦田庸子(6
- 期)斉藤均(19期)中岡庸修(15
- 期)上田敏道(19期)三浦弘美
- (11期)後藤勝子(6期)本田博
- (10期)一口千円松村恵美(29期)
- 室永和子(瑞穂6期)森脇好恵
- (16期)岡部輝生(21期) 門屋
- 邦子(12期)今田幸江(19期)福
- 岡幸雄(13期) 稲田 隼(8期)
- 伊賀美穂(21期)佐々木チズ子
- (6期)吉里輝子(13期)日向護
- (17期)上田明臣(17期)神田信
- 子(23期)竹内常年(瑞穂18期)
- 植田豊(13期)沖征広(14期)日
- 高正行(10期)枝久保美千恵(10
- 期)一谷邦男(9期)倉持佳子(14
- 期)椿美津枝(13期)小林千賀
- (13期)伊東順子(23期)日高早
- 苗(12期)濱田逸子(14期)日野
- 勇夫(瑞穂7期)宮田勝(14期)
- 日高文三(瑞穂1期)洲浜豊和

### 矢上の方言

(12期)若林絹香(70期)服部船  
夫(13期)野坂正(5期)  
はあ 忘れんさつたろう。矢上  
弁、たまにやあ思い出しちゃんさ  
いよ。久しぶりの矢上弁。矢上弁  
いうても矢上だけで使こうつた  
言葉じゃないで。田舎におる時や  
あ使うとつたが、都会に出てから  
使こうとらんような言葉と、思っ  
ちゃんさいよ。この間、京都の旅番  
組見とつたら、京都の旅館の女将  
さんが料理茶碗を「ねきに寄せ  
て」と言うとなんさつたで。「早う  
いのうや」、「いぬる」も最近はや  
いんさるまあ。有名な宮崎県の民  
謡「刈り切唄」の歌詞の中に、「駒  
ヨいぬるぞ 馬草負えよ」と、「い  
ぬる」も西日本で広く使われてる  
言葉だろつた。東日本の人によ、  
わかるまあで。「志都の岩屋」の近  
くの久喜ちゆうところによあ、銀  
山の遺跡があるげなが、この銀山  
の遺跡が、国の史跡になるかも知  
れんで。決まりやあ邑南町で初め  
てだけな。邑南町にも、なかなか  
ええところがあるのお。はあ、み  
んなワクチン打ちんさつたろう。  
まちいとすりや、矢上に帰れる  
かもしれんで。帰つたあと田舎で、  
コロナ土産に持って帰つてきんさつ  
た」いうて、言われちゃやれんがの

お。氣い付けちゃんさいよ。  
さあ、今回の矢上弁の問題は  
「ほんそ」。思い出しんさつたかい  
な。よお思い出しんさらんかった  
ら、矢上の親戚やら同級生に電  
話して聞きんさつたもええで。答  
は次回の総会で。  
\*\*\* 編集後記 \*\*\*  
昨今の状況から、今年度の総  
会の開催は中止になりました。ワ  
クチン接種が進み、感染者が減  
り、非常事態宣言が九月三十日  
で終了し、新しい総理大臣も決ま  
り、東京矢高会の新支部長も決  
まりました。コロナ禍との共生は  
まだしばらく続くものと思いま  
す。いつまでも立ち止まってるわ  
けにはいきません。今号にも原稿  
をお寄せ頂き有難うございまし  
た。母校や野球部の様子や思い出  
ありがとうございます。この場  
をお借りして御礼申し上げます。  
次回発行は来春の予定です。皆  
様からの原稿をお待ちしており  
ます。テーマは自由です。ご協力  
の程、どうぞ宜しくお願いします。  
充分注意しておりますが誤字脱  
字や、見づらいところもあろうか  
と思います。どうぞお許し下さい。  
コロナ禍での生活は何かと不自由  
ではありますが、仕方がありませ  
ん。どうぞご自愛下さい。